

東京共通運送会員です

# アーティア Mezalena

1998.6.29

NO.16



特集 子どもからみた家庭



北区

## 子どもからみた家庭

の向こう側に見えるもの

作文つてなあに?

北区志茂2丁目のマンションの一室に、作文教室「ことばのアトリエ」はあります。今日も一時間おきに子どもたちがやつて来ます。

に、「先生聞いてよ。ムカついてやつたー」「先生、今日学校でねー」「先生、うちのお母さんたらねー」という具合に矢張りばやにしゃべり出します。興奮して顔の赤い子、今にも泣き出しそうな子、ゲラゲラ笑っている子。さまざまな子どもの言ふことを、私はひたすら聞いています。

ムカついている子の言い分はこうです。その日学校で林間学校の係を決めたそうなのです。が、ジャンケンで負けてしまって、一番なりたくなかった朝礼係になつてしまい、それでおもしろくなくて「ムカついてる」ということなのです。

なるほど彼女がムカつくのも当

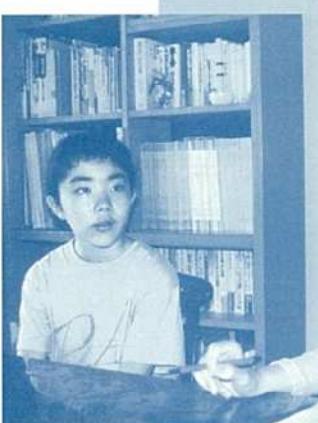
然、と私も思いました。同時に、  
ジャンケンで係を決めることに同意  
したのは誰？ ジャンケンは負ける  
ことだつてあるよね？ など、彼女  
に聞いてみたいことが山ほど浮かん  
できました。

いうところがある、僕はいつもこんなふうに考えてしまうというように、良い点も悪い点もひつくるめたいろいろな自分と出会っていくのです。

いくだけの味気ない作業と思われがちです。しかもそこには常に、上手下手といった評価が加わり、子どもにとつてはただの辛い作業になつてゐるようです。しかし「ことばのアトリエ」では、私と子どもとの会話の中から書きたい題材が生まれていてくという形をとつていてます。しかも評価は全くしないので、子どもたちは安心してどんどん書きたいことを書いていきます。

は日常にこそ物事の本質が潜んでいるような気がしてならないのです。ありふれて出来事こスポットライトト

子どもが書いた作文からは、本当に多くのことが伝わってきます。学校での出来事、友人関係、楽しかったこと、つらかったこと。でも、大人の私たちに一番はつきり見えるものは、意外にも私たち自身の姿なのかもしれません。



今のお仕事

した。しかし、いくら大人びたきれいな文章が書けても、書くこと自体に意味を感じるようにならなければ、文章技術だけで終わってしまうということに、私は気づきました。その結果、改めて作文を問い合わせざるを得なくなりました。そんな時意外な出来事に出会いました。それは我が子の作文をめぐつてのお母さんたちの言葉でした。

ある時、子どもが教室で書いた作文をお母さんにお見せする機会がありました。すると、「えつ！ うちの子こんなこと書いたのですか？」 「うちの子がこんなこと考えているなんてちつとも知らなかつた！」と、いう具合に、ほとんどのお母さんがびっくりされるのです。どうやらお

A blue-toned photograph showing a close-up of a person's hands. The person is wearing a light-colored long-sleeved shirt and is holding a pen over a white sheet of paper. The background is dark and out of focus.

母さんが思つてゐる我が子と違ふ我が子が、作文の中に立ち現れています。お母さんは自分の知らない我が子と、作文の中で出会つたのかもしれません。さらに子どもの作文をじっくり読み込んだお母さんは、「これは子どもの問題というより、私自身の問題だと思います」と言われるのです。不思議なことに、たいていのお母さんはそう言われるのです。

実際に作文に書かれていることはお小遣いのことだつたり、友たちとの出来事だつたり、宿題のことだつたりするわけですが、その作文の中にお母さん自身の子育てや、生き方や、夫やさまざまな人との人間関係などをはつきり見てしまうようなのです。お父さんにお見せしても、これと同様の体験をされるようです。

親は子どもを作文上手にしたいと思つて教室に通わせていることが多いのですが、結果的に子どもの作文が親に、自分の人間関係や生き方を問い合わせるという状況を作つてしまふことがあります。

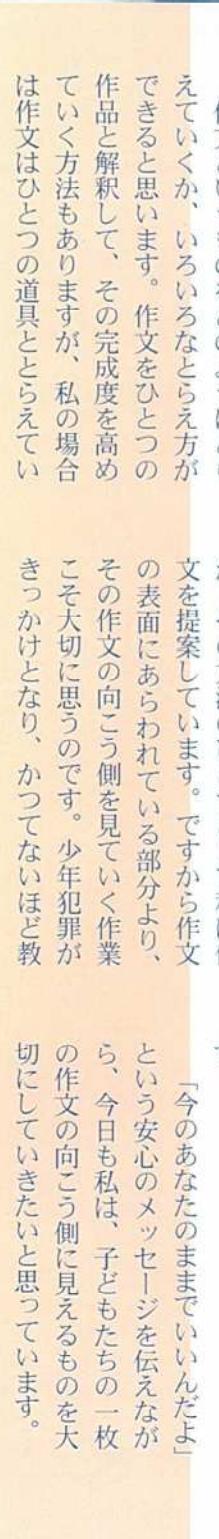
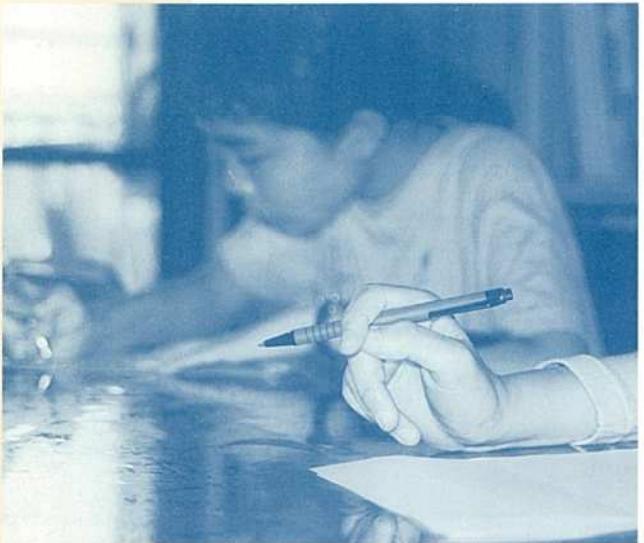
ます。作文を書くことで子どもが自分自身に気づいていく、さらに子どもの作文で親が自分の人間関係や生き方に気づいていくというように、「作文で気づく」という考え方をしています。

誰でも自分のこと、自分の家庭のことは自分が一番よく知っていると思いませんか。たしかにそれも自分はひとつずつ、家庭のひとつずつであります。しかし、自分の顔を自分で決して見ることができないよう、また、自分の顔を見るために鏡に映し出す方法をとるように、他人の中に、物事の中に、自分を映し出していくしか自分と出会っていふ方法はないのではないかでしようか。その方法のひとつとして私は作

育、特に心の教育が呼ばれています。私はこれはなにも子どもに限つたことではないと思います。親と子どもの中真ん中に作文をおいて、お互いがもつと気づきあうというのも育つためのひとつ的方法だと思っていました。今こそ子どもも大人も一緒に育つ時ではないでしょうか。

最後になりましたが、私は作文とは自分に気づき、自分を受け入れる作業だと思います。作文を書くことによって、書いた本人も読んだ人もいろいろな自分に出会っていきます。その自分に対して良いとか悪いとか評価するのではなく、こういう自分なんだと引き受けていくことが大切なのだと思うのです。時には認めたくないような自分が立ち現れる場合もあるかもしれません、これも自分のひとつ側面と自覚することが必要だと思います。

あそこでもそこでもない、あの人はでもその人でもない、ここからしか今の私からしかスタートできないと自覚することこそ重要だと考えます。





## 北区女性政策課は男女共同参画室になりました

### —男女共同参画ってなに？—

平成10年4月の組織改正において、北区女性政策課は男女共同参画室と改められました。これは平成9年12月に改定された「北区役所活性化計画」に基づき、簡素で効率的な組織をめざすもので、全庁的な組織改正の一環です。

場所も第4庁舎の2階に移りました。職員数は、課長級の男女共同参画室長のほか女性センターを含めて10人の職員で構成されています。

改組に当たり、従来の女性政策課から一步進めて男女共同参画室と名称を改めました。男女共同参画室ってなに？よくわからない！女性政策とどう違うの？と思われる方もいらっしゃると思います。

女性政策というと、ともすると女性の地位の向上や女性を取り巻く問題の解決ととらえがちですが、女性を取り巻く問題というのは、実は正に男性の問題でもあるという認識に立って、もう少し広い視野で私たちの生活をとらえ直していこうと考えています。

男女共同参画社会とは、一昨年国が発表した男女共同参画2000年プランによれば、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益

を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と位置づけられていますが、平たくいえば、各人の個性を生かした社会づくり、男女共に支えあい共に責任も負う暮らし方をしようということです。

確かに男性女性の性差はありますが、そのことが差別をする口実とならないような平等な社会、性に中立的な施策が求められているのです。現在、総理府の男女共同参画審議会において審議されている「男女共同参画社会基本法」(仮称)もそのひとつです。

時代の大きな潮流の中では、北区男女共同参画室がやることは小さのことかも知れません。しかし、今回の組織改正が単なる組織いじりに終始しないよう職員一同頑張って参りたいと思っております。

また、この7月に北区アゼリアプラン推進区民会議の第4期がスタートします。学識経験者や区民の方など全部で12人で構成されていますが、このうちの3人は公募委員です。北区の男女共同参画推進の行動計画であるアゼリアプランを新鮮な感覚で推進していただければと思います。殊に、女性センターは男女共同参画の拠点となる施設ですので、講座や運営のあり方にも広くご意見をいただきたいと思っております。

今後とも男女共同参画室をよろしくお願いします。

### 編集後記

るしく過ぎていく時の中で、『文学少女』は完全に遠ざかっていました。今号から『アゼリア』の編集に携わることになり、さうそくインターにわかりやすくまとめることができました。少し心配ですが、皆様に喜んでいただけます。(本田理恵子)

多くの人にあってしまった『出会い』の多い人になってしまった。『出会い』と積極的に『出会い』を楽しむことは、人生のうちは必ずあります。この季刊誌『アゼリア』がご縁となり、ひとり多くの方とふれあおあたらしいなあと思っています。(草間浩子)

普通の人が出会える人の数は本当に限られていて、住所録に100人の名前があれども、『出会い』は相当『出会い』の多い人になってしまって、『出会い』と積極的に『出会い』を楽しむことは、人生のうちは必ずあります。この季刊誌『アゼリア』がご縁となり、ひとり多くの方とふれあおあたらしいなあと思っています。(小田原淑子)

「何か違う」と感じることがあります。『出会い』と『出会い』が、少しだけ変われば、解決できることがあります。『らしさ』の枠を越えて行きたいと思います。どうぞ、お楽しみに！(小田原淑子)

社会で当り前とされていいる女らしさが、男らしさが、少し目線を変えてみると、『何か違う』ことがあります。



子育てと人付き合いだけは受けてしまつて……。男女共に苦手な文書づくりのお手伝いを引き受けます。男女共に得意ですが、一番苦手な文書づくりの助けら

## Azalea

No.16

刊行物登録番号  
10-2-008  
(7月号)

平成10年6月29日発行

発行／東京都北区総務部  
男女共同参画室  
〒114-8508  
北区王子本町1-15-22  
TEL 03-3908-1111  
内線2221・2222

企画・編集／アゼリア編集委員会

区民編集委員  
小田原淑子  
草間浩子  
本田理恵子  
矢澤弘子  
厚美薰

写  
真  
協  
力／株式会社タクト・ワン

『アゼリア』に対するご意見・ご感想、また誌面で取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。



じてそんな活動をお手伝いさせていただきます。皆さんも、『アゼリア』を通じて、『男だから』と『女だから』と肩肘張らずに、のびのび生きられる社会を創っていくためですね。(厚美薰)

同参画室や編集委員の皆様に助けられて頂こうと張り切っています。音楽・映画・お茶好きの4児の母。只

